

六月のテーマ

怒り方叱り方



え・古屋智子

「叱る」とは どういうことか

「怒る」と「叱る」の違いは何か？ Sさんには、二つの

違いを実感した体験があります。

Sさんは大学生の頃、近所の小学校に併設されている学童保育所でアルバイトをしました。そこには、小学一年生から三年生までの児童約四十名が在籍していました。体を動かすことが好きなSさんは、子供たちから鬼ごっこやボール遊びに誘われると、汗をかきながら一緒に遊びました。

しかし、室内で静かに過ごす時間がSさんの悩みの種でした。

宿題をしたり、おやつを食べたりする時間に騒ぐ子供に、「静かに」と注意しても、聞き入れてくれません。机の上に立ち上がっておどける子や、友達の宿題を邪魔する子もいて、騒ぎは次第に大きくなります。

あまりに言うことを聞かない子供たちに腹が立ち、ある日、Sさんは「黙れ！」と大声を上げてしまいました。〈まずいことをした〉と思った時には、後の祭りです。一瞬でその場の空気が重くなり、

泣き出す児童もいました。

子供たちが帰った後、Sさんは主任指導員から、「怒る」と「叱る」の違いについて、次のように教えられたのです。

「怒るとは、感情が剥き出しになって、思ったままを相手にぶつけて、相手がどうなるうとおかまいなく責めること。叱るとは、静かに相手を説き聞かせ、反省を促し、言動や行動を改めさせること」

主任指導員は、長年の保育の経験から、その違いを実感するに至ったとのこと。Sさんは、教わったことを忘れないために、二つの事柄を心に決めました。

①感情的な言葉にならないよう、口に出す前に一呼吸置く。
②叱る必要がある時は、児童の目を見ながら説いて聞かせる。

このような心の持ち方によって、Sさんの、児童に対する接し方に変化が表われたのです。

翌日も子供同士のいさかいが起こりました。Sさんは子供の目の高さになりながら、「〇〇君。いま君のしたことでお友達には悲しんで

いるよ。先生と一緒に謝ろうね。先生は君が良い子だって知っているよ」と、昨日までは考えられないような言葉が口から出たのです。その子は「うん」と頷き、Sさんの言うことを素直に聞いてくれました。他の子供たちも、Sさんを見つめて騒ぐようなことはなくなりました。

一カ月後、Sさんは子供たちから折鶴や工作、絵など抱えきれないほどのプレゼントをもらって、アルバイト期間が終了したのです。現在は、会社の経営者であるSさん。若い社員や部下を指導する際、今も学童保育所での経験を思い出すことがあります。

「いい加減にしろ！」「何度言ったらわかるんだ！」と思わず口をついて出そうになる時、深呼吸をして一拍置き、何を伝えるべきか冷静に考えてから、声を発します。

「叱らなければならぬ場面は多々あるが、感情をぶつけても伝わらない。社員の成長を願い、責め心のない厳しきで接していきたい」と語るSさんです。